

テーマ：

## 神の法

元始に神天地を造れり。（創世記1；1）

### 〔見ゆると見えざる現実〕

正教会の信者にとって「現実」とは何でしょうか。

唯物論者にとっては、現実とは目に見える物であり、計算できる物であり、証明できる物であります。これも一つの現実です。しかし創世記の始めに書かれている通り、万物を造られた全能者である主・神は物質界(地)の前に、神<sup>o</sup>の世界(天)を造られました。

聖神<sup>o</sup>性高い聖人たちは、人間としての肉眼の他に、この霊的世界を見ることのできる鋭い霊的視力を持っていました。例えば聖大アントニイは、悪魔がこの世にクモの巣のように張り巡らした罠を見ることができ、オプチナ修道院の長老聖アンヴローシイは、痛悔に來た人が言わなかった罪を見、自分で補足して言ったと聖伝にあります。霊的世界の現実とは、自分の霊の中身も含めて、霊的な視力によって見ることができます。新約聖書には、「あなたがたの天の父が完全であるように、あなたがたも完全になりなさい」と書いてありますが、「天の父の完全さ」と「自分の現在の霊の現実」の差をきちんと見定めることができるのも、霊的な視力に依ります。

ところがふつうの人間は、その罪ゆえに霊的な視力が脆弱で、自分自身の霊の分析においても、自分が置かれている状況の分析においても、主・神が意図されている真意の分析においても、しばしば誤りを犯します。誤解に誤解が重なって、ここに誤解による「現実」と天地創造の始めから存在した主・神の完全な世界の「現実」に差が現れます。つまり、前述の意味での「見ゆる(物質的)と見えざる(聖神<sup>o</sup>的)現実」ではなく、その両方を包括してなおそれを判断する個人の判断力(どこまで見えているのか)に起因するさまざまな「現実」が存在することに私たちは気がつきます。

**教会の課題とは、神の造られた真理の現実を衆人に示すことです。**

ハリスチアニンは、従順謙遜な心をもって教会の伝統に従うことにより、正しい道を通して天の国に辿り着くことができます。自分の過ちを見、修正し、痛悔機密を経て本来のハリスチアニンの道に立ち帰ることができます。主イイスス・ハリストス自らが「我は道なり、真実なり、生命なり」(イオアン14;6)と言われている通りです。正教会二千の伝統の中で経験されてきた機密、祈祷、齋、教会歴史などの教えは、天の国に至ることを保証する確実な手段です。